

平成30年度 南九州市当初予算

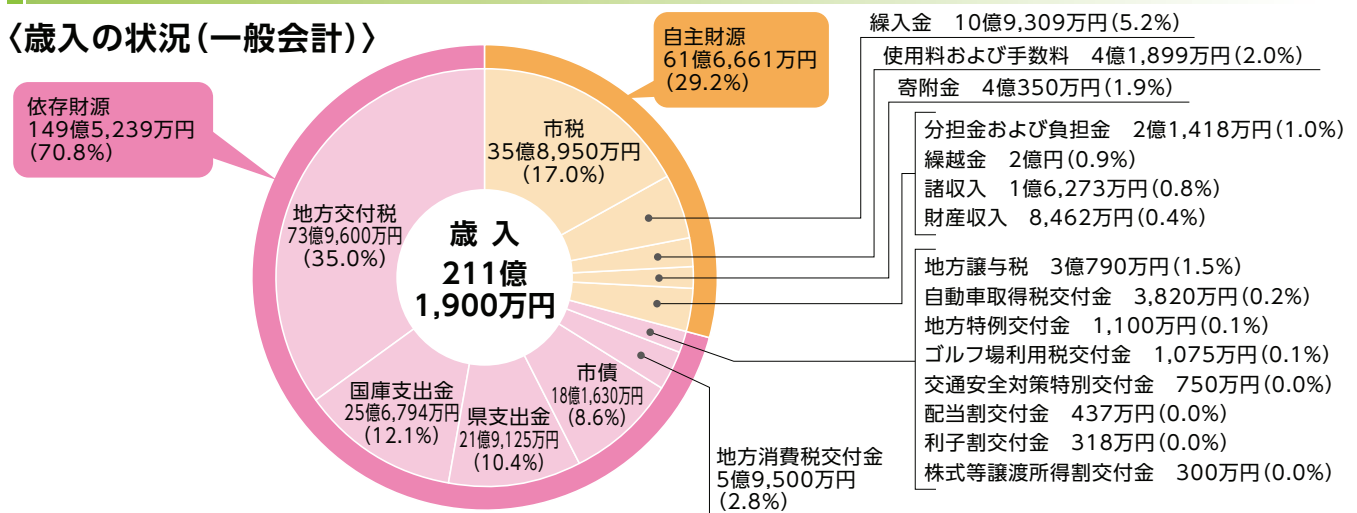
一般会計 211億1,900万円 (対前年度比+4.0%)
特別・企業会計 129億8,818万2千円 (対前年度比△7.1%)

南九州市の平成30年度当初予算は、行政改革大綱、集中改革プランおよび長期財政計画(平成29年度作成)に基づき、長期的な視点に立った財政運営に努めるとともに、第二次南九州市総合計画の基本計画に位置付けられた諸施策を確実に推進するため、効率的かつ重点的な予算編成を行いました。特に平成30年度は、「子ども・子育て環境の充実」、「市の魅力発信」、「教育施設の整備」などに予算の重点的な配分を行いました。

一般会計の総額は、前年度比4.0%、8億2,100万円増の211億1,900万円となりました。また、一般会計と5つの特別会計および企業会計(水道事業会計)を合わせた予算総額は、341億718万2千円で、前年度比0.5%、1億7,719万5千円の減額となりました。

平成30年度当初予算の歳入歳出状況

〈歳入の状況(一般会計)〉



歳入は、国や県から交付されるお金である「依存財源」と呼ばれるものが総額の70.8%を占めており、前年度と同水準となっています。依存財源のうち、最も多いものは、地方自治体が一定水準の行政サービスを保つために国から交付される地方交付税で、全体の35.0%を占めており、以下、国庫支出金、県支出金、市債(借金)の順となっています。

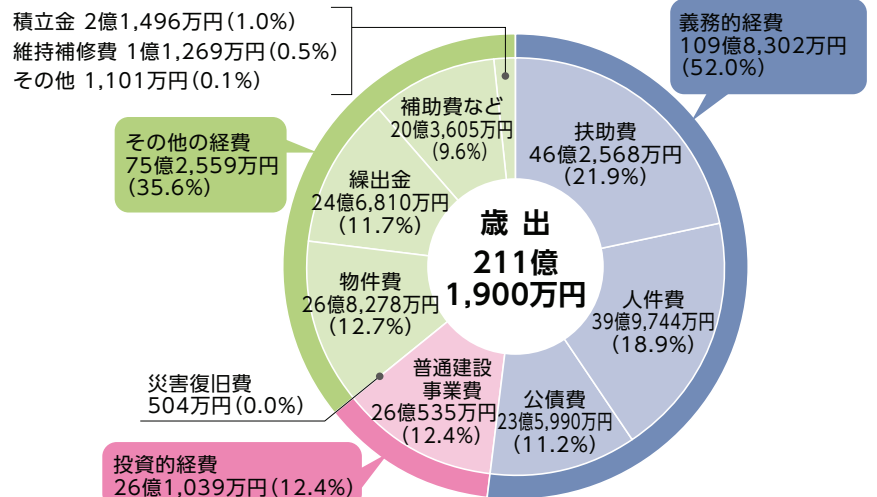
一方、市が自ら賄えるお金である「自主財源」のうち、最も多いものは、市民の皆さんに納めていただく市税で、全体の17.0%を占め、寄附金はふるさと寄附金により前年度に対して1.4ポイントの増加となっています。

〈性質別歳出の状況(一般会計)〉

歳出を性質別に見ると、扶助費、人件費および市債(借金)の償還を行う公債費で「義務的経費」と呼ばれるものの割合が最も多く、全体の52.0%を占めています。前年度に対して1.7ポイントの減で、人件費、公債費の減によるものです。

道路整備や学校施設の整備など「投資的経費」と呼ばれる経費は全体の12.4%となり、前年度に対し1.3ポイントの増となりましたが、強い農業づくり交付金事業などの増によるものです。

繰出金については、全体の11.7%を占め、前年度に対し0.9ポイント減となりましたが、国民健康保険事業特別会計などの減によるものです。



<目的別歳出の状況（一般会計）>

	平成 30 年度	平成 29 年度
民生費	71 億 3,128 万円 (33.8%)	67 億 9,380 万円 (33.5%)
総務費	25 億 6,211 万円 (12.1%)	24 億 2,306 万円 (11.9%)
教育費	25 億 414 万円 (11.9%)	26 億 9,332 万円 (13.3%)
公債費	23 億 5,990 万円 (11.2%)	24 億 1,764 万円 (11.9%)
農林水産業費	18 億 6,675 万円 (8.9%)	13 億 2,275 万円 (6.5%)
衛生費	17 億 3,833 万円 (8.2%)	18 億 4,476 万円 (9.1%)
土木費	12 億 7,016 万円 (6.0%)	12 億 5,205 万円 (6.2%)
消防費	10 億 7,866 万円 (5.1%)	10 億 6,478 万円 (5.2%)
商工費	2 億 242 万円 (1.0%)	1 億 9,809 万円 (1.0%)
議会費	1 億 7,493 万円 (0.8%)	1 億 7,329 万円 (0.9%)
諸支出金	2 億 1,528 万円 (1.0%)	9,949 万円 (0.5%)
予備費	1,000 万円 (0.0%)	1,000 万円 (0.0%)
災害復旧費	504 万円 (0.0%)	497 万円 (0.0%)

歳出を目的別に見ると、最も大きな割合を占めるのが、市民の皆さんが安心して暮らすための福祉の充実などに使われる民生費で、前年度に対し0.3ポイントの増で全体の33.8%を占めています。これは、保育所に対する運営補助などの増によるものです。

次に多いのは総務費で全体の12.1%を占めていますが、ふるさと寄附金事業費の増によるものです。

以下は教育費、公債費、農林水産業費、衛生費、土木費、消防費の順となっています。

会計別の当初予算額

区 分	平成30年度	平成29年度	比 較	
			増減額	増減率
一般会計	211億1,900万円	202億9,800万円	8億2,100万円	4.0%
特別会計	117億9,510万円	129億3,570万円	△11億4,060万円	△8.8%
国民健康保険事業特別会計	59億5,000万円	72億4,360万円	△12億9,360万円	△17.9%
後期高齢者医療特別会計	5億5,210万円	5億6,020万円	△810万円	△1.4%
介護保険事業特別会計	50億8,030万円	49億1,000万円	1億7,030万円	3.5%
農業集落排水事業特別会計	7,540万円	7,740万円	△200万円	△2.6%
公共下水道事業特別会計	1億3,730万円	1億4,450万円	△720万円	△5.0%
水道事業会計	11億9,308万2千円	10億5,067万7千円	1億4,240万5千円	13.6%
合 計	341億718万2千円	342億8,437万7千円	△1億7,719万5千円	△0.5%

平成30年度当初予算を市民1人当たりに換算すると・・・

市民1人当たりが負担する市税

総額 **98,730円**

※金額は、平成30年2月28日現在の住基人口(35,871人)で計算しています。(鉱産税、国有資産等所在市町村交付金は除く。)

市民1人当たりに使われるお金

総額 **588,749円**

※金額は、平成30年2月28日現在の住基人口35,871人で計算しています。



固定資産税
54,072円



市民税
34,577円



民生費
198,804円



総務費
71,426円



教育費
69,809円



公債費
65,789円



市たばこ税
5,995円



軽自動車税
4,086円



農林水産業費
52,041円



衛生費
48,460円



土木費
35,409円



消防費
30,071円



その他
16,940円

平成30年度当初予算の特徴

南九州市では、将来都市像である「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を目標として掲げ、南九州市総合計画に基づきまちづくりを進めています。ここでは、平成30年度の当初予算の特徴について新規事業を中心に紹介します。



子育て支援体制の強化

1 子育て世代の交流の場を設置します。

【97万円】

子ども・子育て環境の充実のため、親子でふれあいを持てるような、交流の場（キッズコーナー）を各地域に設けます。

2 産後ケア・新生児聴覚検査を行います。

【115万円】

母子の健康保持のため、これまでの健診に加えて産後ケア、新生児の聴覚検査を行い、産み育てやすいまちづくりを進めます。

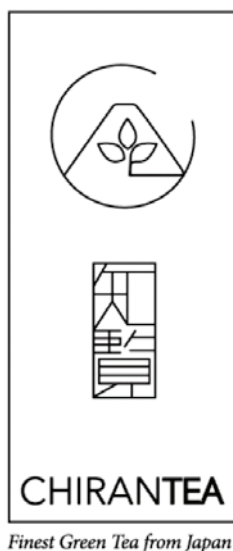


市の魅力発信

1 首都圏における知覧茶などの情報発信を行います。

【1342万円】

知覧茶を始め、特産品の新たな販路拡大に向けた取り組みとして浅草の商業施設「まるごとにつぼん」に出展し、市のPR・情報発信を行います。



2 北九州市との交流10周年記念

【継続・一部新規159万円】

北九州市との友好姉妹都市交流協定10周年を記念し、北九州市とのコラボメニュー開発、共同物産展を開催します。

3 地域ブランディング事業

【832万円】

南九州市の魅力を紹介する静止画、動画および統一デザインによるのぼりなどのグッズを作成します。



暮らしやすいまちづくり

1 集落支援員を設置します。

【350万円】

市内の各地区の状況を把握し、地域力の維持・強化に資する取り組みにより更なる活性化を推進します。

2 男女の出会いを応援します。

【72万円】

出会いサポーター倶楽部（仮称）への助成により結婚を希望する方の出会いの機会を提供します。

教育施設・環境の充実

1 かごしま国体に向けて整備を行います。

【8435万円】

2020 かごしま国体に向けて競技場のナイター照明施設整備工事、段差改修工事などを行います。



2 英会話活動協力員を設置します。

【324万円】

小学校における英語学習の一環として、英会話などの学習活動を取り入れます。

